

平成 29 年度 事業計画について

メインテーマ「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」

I 基本方針

老人クラブ連合会の会員数が減少し続けている今、全国老人クラブ連合会は100万人会員増強運動に力を入れてきている。メインテーマ「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」を掲げ、老人クラブの「健康・友愛・奉仕」の三大目標を充実させようとしている。

仙台市老人クラブ連合会でも、高齢者が増えてきているにもかかわらず、老人クラブ連合会の会員は減少の一途をたどってきている。平成26年度・27年度の減少率は全国で下から11番目という状況になっている。会員減少をおさえるために、老人クラブ連合会として何をしなければいけないのかその検証を行い、思い切った改革をしていく必要があると考える。

まず、会費を払ってでも入会したいと思わせる「魅力的な老人クラブ」の実現に向けて、仙老連の理事会、正副会長会、専門部会、委員会でいろいろなアイデアをだしあって、改善していくよう努力する。

II 重点目標

<会員増強>

- 1 震災前の会員数を目標に計画的に会員増強
- 2 若手高齢者を対象に加入を働きかけ、クラブの若返りと活性化、そして会員増強

<健康・友愛・奉仕>

- 3 高齢者の健康づくり、生きがいづくり、社会奉仕事業の推進
- 4 変化し続けるコミュニティーの中で会員の孤立を防ぐ友愛活動の展開

<組織運営>

- 5 理事会、正副会長会、各専門部会、各委員会での話し合いや活動がきちんと単老会員まで伝わるような組織づくり
- 6 若手人材の養成やリーダー研修会修了者を取り込んだ組織づくりと基盤強化
- 7 行政と連携し、地域づくりに貢献

Ⅲ 事業計画

1 震災前の会員数を目標に計画的に会員増強

- (1) 会員増強をめざし、「脱会クラブ」「解散クラブ」ゼロを基本に、単老実態調査を基に、各単老への働きかけを行う
- (2) 各クラブ1名～2名の純増を目指す
- (3) 若手高齢者が入会したいと思うような魅力あるクラブづくり
- (4) 新基準による新規会員獲得クラブ表彰と奨励金の交付
- (5) 全老連「100万人会員増強運動」と連携して会員増強に努める。

2 若手高齢者を対象に加入を働きかけ、クラブの若返りと活性化、そして会員増強

- (1) 団塊の世代をターゲットにしたHPの更新やリーフレットやパンフレットを活用し会員の加入増強を目指す
- (2) 身近にいる若手高齢者に対して、行事の時に声を掛けて参加してもらい、楽しさを実感して老人クラブの魅力等を理解してもらう事を目指す
- (3) 単位老人クラブの若手高齢者の友人に対しての声掛けや話し合いを積極的に行い、老人クラブの意義を理解してもらう
- (4) 単位老人クラブに若手高齢者が興味を持ちそうなクラブ活動を増やすようにしていく
- (5) 昔からの会員同志で集まるのではなく世代間での交流を促すように努める
- (6) 社会福祉協議会、町内会、地域包括支援センターとの連携に努め、地域内の若手高齢者の実態把握し勧誘に努める
- (7) 老人クラブ活動の広報活動に力を入れる
 - ①各区役所との合同の事業（区民祭り・豊齢まつり・芸能祭等）の時、会場にパネル展示をして老人クラブ活動の啓蒙に努める
 - ②「介護予防月間」中に老人クラブ活動について解り易く展示

3 高齢者の健康づくり、生きがいづくり、社会奉仕事業の推進

- (1) シルバースポーツセミナーの開催
- (2) シルバースポーツ推進員のフォローアップ研修会の充実
- (3) 高齢者の「健康ウォーキング」の推進
- (4) 体育祭、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ペタンク大会の開催
- (5) 体力測定事業の推進と健康体力維持へ日常でできる「ながら運動」の普及などの働きかけの強化
- (6) 脳の健康づくり研修会の開催
- (7) いきいきクラブ体操の普及・実践
- (8) 全国一斉「社会奉仕の日」活動の取り組み
- (9) 伝承活動、世代間交流活動の展開
- (10) シルバースターズ合唱団、六和功の育成

4 変化し続けるコミュニティの中で会員の孤立を防ぐ友愛活動の展開

- (1) 地域から離れてしまった被災会員に対する友愛活動
- (2) 高齢化による認知症の発症や身体的な衰えが目立つ会員への理解と友愛活動
- (3) 各地域での「サロン活動」の充実
- (4) 地域の未加入者、高齢者を把握し、加入を促し孤立を防ぐ
- (5) 高齢者相互支援活動、友愛活動の展開

5 理事会、正副会長会、各専門部会、各委員会での話し合いや活動がきちんと単老会員まで伝わるような組織づくり

- (1) 区老連の理事会主導による地区老連理事会・単位老人クラブの役員会の開催支援
- (2) 仙老連の行事や各専門部活動、各委員会活動の広報活動の強化
機関誌「伊達なクラブ仙台」の年2回発行と情報紙「伊達なクラブ仙台」の年4回の発行
- (3) 「区老連だより」を利用した情報伝達
- (4) 単老実態調査結果の有効利用
- (5) 各区老連の専門部会や委員会と仙老連専門部会、委員会との連携

6 若手人材の養成やリーダー研修会修了者を取り込んだ組織づくりと基盤強化

- (1) 若手委員会企画講演会の実施
- (2) 若手委員会人材育成養成講座の実施
 - ①若手リーダー養成講座（6月～8月）
パソコン技能の修得、リーダー研修
- (3) 若手委員やリーダー研修会修了者による行事の支援
 - ①体育祭などの活動支援
 - ②各区老連行事への活動支援
- (4) 各区老連に配布しているパソコンデータの利用に研修修了者や若手委員を活用
- (5) リーダー研修会の企画及び参加
 - ①クラブリーダー養成研修会の実施
 - ・新任単老会長研修会
 - ・単老役員研修会、地区老役員研修会（各区老連で実施）
 - ②女性部企画研修会、女性部研修会の実施
 - ③東北ブロックリーダー研修会への参加（福島県）
 - ④都道府県・指定都市老人クラブリーダー中央研修会への参加
 - ⑤全国老人クラブ大会への参加（京都府）
- (6) 組織の基盤強化
 - ①各区老連との連携及び事務局体制の整備
 - ②全国老人クラブ連合会及び行政への協力要請

7 行政と連携し、地域づくりに貢献

- (1) 平成29年度から行政研修会の実施
- (2) 高齢者の事故防止等の研修会
 - ①交通事故防止、火災防止、消費者被害防止等の研修会(各区老連で実施)
警察、消防署、地域包括支援センター、消費生活相談協会等との連携

8 広報活動

- (1) 機関誌「仙老連」の発行(年2回、全クラブ会員配布)と内容の充実
- (2) 仙老連の「愛称」を広く普及させ、仙老連に対する理解の拡充
- (3) 年間行事を検討し、仙老連、区老連等の活動内容をHPに掲載
- (4) 企画広報部会を中心とした新しい広報活動
- (5) 新聞、テレビ、ラジオなどマスコミへの行事等の情報提供

9 関係機関・関係団体との連携及び交流

- (1) 全国老人クラブ連合会との連携
 - ①全老連主催の研修会への参加
 - ②全老連のスローガン、全国運動に対する協力
- (2) 都道府県・指定都市老人クラブ連合会との連携
 - ①会長、局長会への参加と情報交換
- (3) 北海道・東北ブロック老連との連携協力および情報提供
 - ①北海道・東北ブロック活動推進員会議への参加、資料提供、情報交換
- (4) 仙台市健康福祉局、健康福祉事業団、社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携

10 法人の運営

- (1) 通常総会(年1回)の開催
- (2) 理事会(年6回)の開催
- (3) 正副会長会(月1回)の開催
- (4) 専門部会および若手委員会、高齢者相互支援活動委員会の開催